



東京は、6月中旬から夏のような陽気が続いております。  
それでも学生たちが嬉しそうに七夕の短冊を笹に結びつける様子は  
大変微笑ましい光景です。

## ◆ 今週 7 月 11 日は 総会、総会企画です！

ご連絡しております通り、7月11日（金）は決算の理事会、総会、総会企画が対面  
とオンラインのハイブリッドで開催されます。

理事の皆様とは 13:15 からの理事会で、その他の皆様とは  
14:30 からの総会でお目にかかることと思います。また  
総会企画には 90 名近くの参加希望者がありました。認定取  
得に向けて皆様のお役に立てればと思います。

ご出席、お忘れなきよう、お願い申し上げます。



3 月の総会の様子

### 全国専門学校日本語教育協会

理 事 会 13:15～14:15（文化学園C041 国際会議室／オンライン併用）

総 会 14:30～15:30（文化学園C041 国際会議室／オンライン併用）

総会企画 15:45～17:30（文化学園C041 国際会議室／オンライン併用）

企画① 講演 日本語教育機関認定法について  
文部科学省総合教育政策局日本語教育課

教育企画調整官 亀田 恒治 氏

企画② 意見交換 日本語教育機関の認定取得に向けて

## ◆ 日本語教育課 <sup>ふりはた</sup> 降簀友宏 新課長と懇談

日本語教育課に 4 月 1 日に着任した降簀友宏課長と亀田恒治調整官が、4 月 23 日に  
文化外国語専門学校に足を運んでくださり、全国専門学校日本語教育協会の執行役員  
との懇談が実現しました。

文部科学省 総合教育政策局 日本語教育課長 <sup>ふりはた</sup>降旗 友宏 氏

日本語教育課 教育企画調整官 亀田 恒治 氏

全専日協からは、深堀和子会長（外語ビジネス専門学校）、平野公美子副会長（日本外国語専門学校）、池田俊一副会長（横浜デザイン学院）、木村実季監事（専門学校アジア・アフリカ語学院）、古屋和雄理事（文化外国語専門学校）、西村学事務局長（文化外国語専門学校）が懇談の場に参加し、以下のことを伝えました。

本協会は「教育の質の維持・向上、正確な情報の共有、学生への支援」を目指してまじめに活動に取り組んでいる。具体的には教育内容の勉強会や行政からの講演会の実施、日本語弁論大会の開催、優秀学生表彰、そして、災害時の対策として転学の規程を策定など、具体的な取り組みも紹介し、日本語教育課のお二人に理解を求めました。

日本語教育機関の認定法の申請に関して「都道府県の認可を受け、既存校として真摯に日本語教育に取り組み、成果を出してきている専門学校や各種学校の日本語科に対して、実績を踏まえた審査をしていただきたい。また、専門教育や地域性によって個性豊かな教育事業を展開していることを踏まえ、それぞれの学校の特徴を適切に評価して多様な日本語教育の在り方を認めていただく必要がある」と訴えました。

お二人は丁寧にメモを取りながら私たちの話に耳を傾け、降旗課長は、「今日のご意見を踏まえて何ができるか検討していきたい。今後ともご意見をお聞きする機会を設けていきたい」と話されました。



（後列）木村実季監事 池田俊一副会長 古屋和雄理事 西村学事務局長

（前列）平野公美子副会長 深堀和子会長 降旗友宏課長 亀田恒治調整官

今後とも、降旗課長、亀田調整官をはじめ、日本語教育課の皆様とは折に触れて私たちの意見をしっかりと伝えてまいりたいと思います。

## ◆ 日本語教育推進議員連盟 第 22 回総会に出席

議連総会に先立って、5月17日に日本語教育機関団体連絡協議会（旧6団体）のオンライン会議が開催され、池田俊一副会長と西村学事務局長が出席しました。他団体の代表者と意見交換を行い連絡協議会として以下のような要望をまとめ、日本語教育推進議員連盟（会長 柴山昌彦 議員）に提出することとしました。

- ・育成就労制度における日本語教育機関の有効活用
- ・日本語教育機関の支援施策の充実
- ・認定申請に関する要望  
課程の編成、名称への柔軟な対応、相談窓口の充実、  
学校法人の機関の書類の軽減、告示校の申請機会の確保
- ・登録日本語教員の受験機会の拡大

そして、第22回の議連総会は、6月12日14時から参議院議員会館会議室にて開催され、6団体の代表者が出席しました。全専日協からは、池田俊一副会長と佐久間みのり氏（横浜デザイン学院）が出席いたしました。上記の要望に対して、文部科学省からは以下のような説明がありました。

- ・「認定日本語教育機関活用促進事業」を展開している。  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/nihongo\\_kyoiku/mext\\_00025.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/nihongo_kyoiku/mext_00025.html)
- ・教育課程間の学生の移動や選択科目の設置は柔軟にできると示している。
- ・窓口については、メールでの受付を常時行っている。手引きや注意事項を充実させて情報発信の機会を増やしていく。
- ・申請多数になった場合に新設校を優先する方法は取りやめた。
- ・日本語教員試験の機会拡大は検討したい。

これらの中には、7月11日に聞く総会企画の講演でも説明されるものがあると思われます。

今後も、日本語教育推進議員連盟の動向をウォッチしていきたいと思います。

「サイゼンセン」の77号を7月7日に発行！ ちょっとうれしいです。



2025年7月7日  
全国専門学校日本語教育協会  
ニュースレター担当